



# 第11回詩のまち前橋若い芽のポエム

## 1万9,685編から入賞者90人が決定

「第11回詩のまち前橋若い芽のポエム」の選考委員会が9月6日に行われ、1万9,685編の応募の中から入賞作品が決まりました。ここでは、小学生、中学生、高校生の3部門で最優秀賞の美棹賞を受賞した作品などを紹介。なお、賞の贈呈式と朗読会は、11月10日(土)に前橋テルサで行います。

問い合わせは文化国際課 ☎890-5825へ。

属中等教育学校4年  
 銀賞 圓延美咲(市立前橋高2年)  
 銅賞 木暮千裕(県立ろう学校高等部2年)  
 佳作 2人  
 入選 4人

■学校賞に21校  
 小学校 桃井小、下川淵小、元総社南小、東小、荒牧小、大室小、滝窪小、滝窪小金丸分校、粕川小、中之条町立中之条小  
 中学校 五中、六中、南橋中、荒砥中、福岡教育大付属久留米中、渋川市立渋川中、中之条町立中之条中、太田市立宝泉中  
 高校 市立前橋高、渋川工業高、高崎商科大付属高、東京大付属中等教育学校

感じました。今回は24の都道府県のほか、海外からの応募もあり、「若い芽のポエム」が広がりを見せているようです。

選考は、委員それぞれが前もって相談することなく、また、どの県か、どの学校かということは分からない状態でいきます。わたしを含めて4人の選考委員が、一つ一つの作品について議論を戦わせながら選びました。その中で、今までにない作品に多く出会い、新しい時代を予感させるような作品が多く見られたことは、今後このコンクールの発展につながるのではないのでしょうか。

「詩のまち前橋若い芽のポエム」は全国の小中学生、高校生を対象にした詩のコンクールです。11回目の本年度は応募数が昨年度と比べると2,000編以上も増加。また、初めて海外のオーストラリアからも応募があり、全体的な作品のレベルもさらに向上しました。

■90人の入賞者(敬称略)  
 ●小学生の部  
 美棹賞(金賞) 鈴村美桜里(中川小4年)  
 銀賞 林優花(滝窪小金丸分校1年)

銅賞 長谷川浩輝(高崎市立国府小5年)  
 佳作 12人  
 入選 36人  
 ●中学生の部  
 美棹賞(金賞) 平田和徳(東中3年)  
 銀賞 大島芽依(五中1年)  
 銅賞 中村菜実(二中3年)  
 佳作 7人  
 入選 20人  
 ●高校生の部  
 美棹賞(金賞) 奥山愛(東京大付)

■秋谷委員長の講評(要旨)  
 今年も小学生・中学生・高校生からたくさんの方が寄せられました。それぞれの世代ともその時代が反映されています。このコンクールも今年で11回目を迎え、作品の良さが年々高くなり、若い皆さんの詩を書く精神を養う環境が整ってきていると

感じました。今回は24の都道府県のほか、海外からの応募もあり、「若い芽のポエム」が広がりを見せているようです。

選考は、委員それぞれが前もって相談することなく、また、どの県か、どの学校かということは分からない状態でいきます。わたしを含めて4人の選考委員が、一つ一つの作品について議論を戦わせながら選びました。その中で、今までにない作品に多く出会い、新しい時代を予感させるような作品が多く見られたことは、今後このコンクールの発展につながるのではないのでしょうか。

■贈呈式と朗読会  
 ●第11回若い芽のポエム贈呈式  
 日時 11月10日(土)午後1時～1時40分  
 会場 前橋テルサ  
 ●朗読会  
 日時 11月10日(土)午後1時40分～3時30分  
 会場 前橋テルサ  
 内容 入賞者と選考委員、推薦委員の詩の朗読

### 各部門の美棹賞作品

#### 小学生の部



鈴村美桜里さん  
中川小・4年

わたしのほしいロボット  
 ロボットさんてすごいね  
 おそうじしたり、みるす番したり  
 工場で自動車を組み立てたり  
 水の中を泳いだり  
 何でもできるんだね  
 わたし おそうじロボットがほしいな  
 大きな大きなおそうじロボット  
 なんでもすいこんじやおそうじロボット  
 台風が日本に上りくしそうになつたら  
 エンジン全開  
 うずまき雲をどんどんすいこんで  
 やさしい雨と風にして  
 ふき出し口から少しづつ出す  
 そんなロボットほしいな  
 地球の空の上には  
 ゴミがたくさんあるんだってね  
 人工えい星を打ち上げた時  
 たくさんのゴミが散らばったんだって  
 ロボットさん そのゴミもすいこんでね  
 だって  
 うちゅうステーションにぶつかつたら  
 大変なことになるものね  
 それから  
 もっと大事なこと  
 地球全体が温だん化していて  
 いつか  
 人間が住めなくなるかも知れないんだって  
 そんなの わたしいやだよ  
 大きな大きなロボットさん  
 地球上の悪い空気をすいこんで  
 きれいな空気にしてほしいな  
 でも ちょっと考えてみると  
 そんな大きなロボット作るのには  
 人間だから  
 人間の知恵で住みよい地球に  
 できるよ  
 わたしも お手伝いするから

#### 中学生の部



平田和徳さん  
東中・3年

かくれんぼ  
 まばゆい太陽の光  
 鶏の声だけが響く静かな路  
 この風景 あの日見たものと似ている  
 小さな財布に大きな五百円玉  
 ポケットに押し込んだ ああ夏の朝  
 確かに僕は握っていた  
 じいちゃんの手  
 忘れられない温かな手  
 穏やかな目に 威勢ある脚  
 じいちゃんはまだ笑顔だった  
 数多くの思いをかみしめ  
 着いた先は ああ夏の思い出の場  
 おもちゃ屋「かくれんぼ」  
 じいちゃんに何買ってもらったつけ  
 あの日買った瞬間  
 手にとった瞬間  
 悲しみが心を染める  
 今はもう隣りにいない  
 優しく 穏やかで 笑顔輝く  
 僕はこの日やと気付く  
 心の中で「かくれんぼ」している  
 隣にはいなくて  
 陰で支えてくれてる  
 陰で応援してくれている  
 優しく 穏やかで 笑顔輝く  
 じいちゃんに  
 無性に叫びたくなった  
 もう見つかつてるよ  
 じいちゃん

#### 高校生の部



奥山 愛さん  
東京大付属中等教育学校・4年

ひとりぼっちの独人  
 おらは独りであらわれて  
 おらは独りで生きていく  
 真つ赤な光に誘われて  
 あらわれてみたはいいけども  
 行く宛もねえ  
 身寄りもねえ  
 なあんもねえ  
 おらは やつぱり ひとりぼっち。  
 やがて  
 赤銅色のヤマドリ  
 長い長い尾っぽと一緒に  
 深い深い漆黒の夜が  
 おらを取り巻く  
 しかし  
 おらは迷わず突き進む  
 ひとりぼっちで 突き進む。  
 奥の方に見えるは なんだろう？  
 橙赤の、光？  
 まぶしくて大きな蓮華状の  
 それは花だ。  
 ひとりぼっちのレンジツツジ。  
 一緒に居ようと触れた途端  
 うっちなだ。  
 おらは やつぱり ひとりぼっち。  
 独人は  
 ひっそりあらわれて  
 独人は  
 ひっそり生きていく。  
 ※独人(ひとりうど) 身寄りのいない者